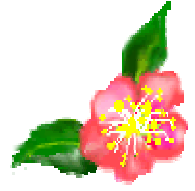


船橋 YMCA 通信



No.39 2007年11月1日

編集 千葉YMCA船橋地域デポ運営委員会 発行人 榎 一光
〒273-0825 船橋市夏見6-6-6 日本基督教団船橋教会内
電話：(047)425-6366 F A X：(043)222-5061



チャリティーラン開催

千葉YMCAチャリティーランは、29チームが参加し、10月20日(土)に夏見台にある船橋市運動公園の特設コースで開催されました。

今年の大会は、船橋市制施行70周年記念と千葉YMCAチャリティーラン第10回の記念すべき大会で、参加者も500名を超える盛況でした。



《駅伝のスタートです》

今回だけの特別賞の船橋市長賞は、柏センターの子ども達の“サタデースクールのあA”チームと“サタデースクールのあB”チームが、純粋に走ることで大会を盛り上げた功績で受賞しました。

また、がんばったで賞は、最後まであきらめずに走り、歩いた“みんなのいえチャオ”チームに贈られました。



《“みんなのいえチャオ”チームのゴールです》

サイクリングキャンプの報告

8月19日～23日の5日間かけて、千葉県房総半島約200kmをメンバー・リーダー・ディレクター合わせて35人で走りました。この200kmは、ただ平坦な道を自転車で走るのではなく人通りの多い市街地や険しい山を登ったりします。

市街地が多い千葉みなと公園～白子を走った1日目、海岸近くのサイクリングロードを走った白子～大原を2日目に、キャンプ最初の難所である坂道がある3日目は、大原～養老溪谷(夷隅郡)を、2km以上はある上り坂、子ども達曰く地獄の坂がある4日目は、養老溪谷(夷隅郡)～長柄、ゴールが目前だけど、緊張感を持って市街地を走る5日目は、長柄～千葉みなと公園と走っていきました。



サイクリングキャンプは、かなりリピータが多く私自身も今年2回目の参加です。リーダーも子ども達と一緒に、つらい上り坂も風が気持ち良い下り坂も走ります。只走るだけでなく、遅れた子に声援を飛ばすみんなの気持ちがとても好きです。この楽しさも辛さも一人で乗り越えるのではなくキャンプにきたメンバー・リーダーと乗り越える

一つのチームになるのです。私自身リーダーとして、私個人として自信は胸張ってあるとは言えませんでした。ですが、キャンプが始まる前より終わった後に残る達成感や一体感が私に大きな自信をつけてくれました。



諦めないで頑張ろう！と自分の力と、友達の声援で約200kmを走り切ったことは少なからず子どもたちの自信に繋がるでしょう。繋がってほしいと願います。

曾田裕美子（ランプリーダー）

のびのびキャンプの報告

8月17日～20日に千葉市少年自然の家で行ったのびのびキャンプは「みんなと一緒に」というテーマに沿って3泊4日を過ごしました。



クラフトで行った麦わら帽子作りでは子どもたちが思い思いに色を塗ったりフェルトを付けたりしてカラフルな麦わら帽子が出来て、みんなも笑顔になりより場の明るさが増しました。

野外炊飯でのカレー作りでは、懸命に野菜を切ったり薪割りをしたりしていて、積極的に取り組む姿が印象的でした。

またキャンプファイヤーではみんなで大きな声で歌を歌い楽しく過ごし、一体感を感じる事ができました。

4日間を通してどのプログラムにも子どもたちみんながいて、みんなが一緒だったからこそ、この楽しいキャンプになったと思います。今年感じた事や経験をまた来年に繋げていきたいです。貴重な良い思い出をありがとうございました！

佐藤 大介（たいようリーダー）

船橋YMCA活動記録

船橋YMCAの9月、10月の活動記録です。

- ・9月5日（水）チャリティーラン事務局会議
- ・9月8日（土）そらまめクラブ「あおぞら」
作品：夏の思い出を動物や昆虫にしよう！！
参加人数：4名
- ・9月8日（土）船橋地域デポ運営委員会
- ・9月15日（土）チャリティーラン実行委員会
- ・9月16日（日）わんぱくクラブ9月例会
内容：ゲーム・クラフト
場所：袖ヶ浦近隣公園
参加人数：11名
- ・10月6日（土）チャリティーラン事務局会議
- ・10月13日（土）そらまめクラブ「あおぞら」
作品：もうすぐハロウィーン！ハロウィーングッズを作ろうねー！
参加人数：4名
- ・10月13日（土）夏見福祉まつり
内容：視覚障がい者グッズの展示と説明
- ・10月20日（土）第10回チャリティーラン
- ・10月21日（日）わんぱくクラブ10月例会
内容：ドラ焼き作り
場所：千葉市生涯学習センター
参加人数：11名
- ・10月23日（火）船橋地域デポ運営委員会

編集後記

のびのびキャンプは、手足の不自由な子ども達を対象にしたプログラムです。このキャンプでは参加メンバーに1対1でリーダーがつき、キャンプ生活をサポートします。毎年チャリティーランの益金の一部は、このキャンプの費用に充てられています。

（槇）